

となりにいるよ

2023.04
Vol.37

となりにいる

ゆうりん施設長 小尾 康友

広報誌の題名もあり、有鄰の理念でもある「となりにいる」について書いてみます。

私たちは子どもの自立の援助を仕事としています。自立を辞書で調べると「他の助け無しに自分一人の力だけで物事を行うこと」と書かれています。このように、社会は自分一人の力だけで出来るようになること（自己責任）を求めてきます。このプレッシャーにより一人で出来ない自分は周りと比べてダメだと、劣等感を感じてします。そんな日本では、若者（13歳～35歳）の死因第一位が自殺で、紛争地域と同じ数の人が自ら命を絶っています。生きるための予防策としては、辞書とは反対の「ヘルプを出す（助けを出せる）」ことが必要であり、ヘルプを出すためには「安心できる誰か」や「安心できるどこか」が必要です。チンパンジーでも安心がないと、周りに攻撃したり、喧嘩を止めるために抱きしめると言います。生物学的にも安心が必要だと言えます。

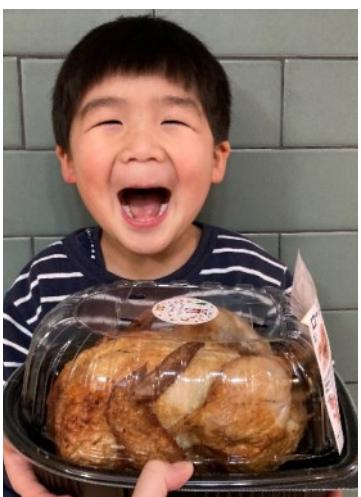
また、子育ても同じように、家庭や親、子どもの自己責任とする場面が多くあります。子育てに悩まない親はいません。親が一人で出来るようになる力を求められると、困ったときにヘルプが出せずには息苦しさを感じてしまいます。

また、「自分はダメだ、自分なんてどうなつてもいい」と言う子どもに出会うことがあります。その時に「あなたは、大切な存在ですよ、ありのままでいい、幸せになつていいんだよ」と伝えます。この言葉の筋を通す支援を行うためには、自己責任ではなく、周りにヘルプが出来る社会へ変わる必要があります。そのため、目の前の家庭や子どもたちに対して、有鄰が少しでもほつと出来る居場所となり「となりにいる」存在となれたらと思います。

この安心を目指した支援を行い、その先に子どもたちが暮らす大高町（地域社会）で子どもを育てる風土を作り、その輪が社会全体へと広がればと描いています。



ゆうりん



この冬は外出制限も緩和され
感染症対策をしながらお出かけ!
たくさん思い出作りができました
桃の節句も過ぎ 風も日差しも
春らしさを感じられる頃となりました
またたくさん思い出作ろうね



かえで



子どもたちが飼い始めたハムスター

「YouTubeがみたい！」 「夜遅くまで起きていたい！」 「遊びに行きたいい！」 と最近、かえでの子どもたちは好奇心と行動力に溢れています。 やつてみたいことはたくさんだけ、職員はYouTubeの使用方法など、子どもたちと駆け引きをしながら、お互いが楽しく過ごせる方法を摸索中です。

4月からかえで在籍6人中3人が中学生になり、年齢層がぐつと上がってきているを感じています。世界が広がり、今までの殻を破つて新しいことをしたくなつてくるのだろうなと思います。自己主張するのではなく大事なことなので、自分がしたいことをどうしたら実現できるのかを、子どもと一緒に考えていました。



新年度、不安も期待もたくさんあります。 「いろいろあつたけど楽しかった」と思えるような1年をみんなで作つていけたらいいなと思います。

新年度、不安も期待もたくさんあります。 「いろいろあつたけど楽しかった」と思えるような1年をみんなで作つていけたらいいなと思います。

コロナの流行も落ち着き、社会的にもマスクの着用が個人の判断になります。楽しいことをしようとするにも感染リスクを考えていましたが、徐々に日常が戻つてきたように感じています。

新年度に職員の入れ替わりがあり、子どもたちの不安もあるかと思いませんが、楽しい計画を立てながら、みんなが笑顔で過ごせるようにしていきたいです。

今年度に職員の入れ替わりがあり、子どもたちの不安もあるかと思いませんが、楽しい計画を立てながら、みんなが笑顔で過ごせるようにしていきたいです。

2月に1泊のスキー旅行に行きました。初めてスキーをする子や3年ぶりに滑る子がいました。子どもたち同士で「教えてあげる」「滑つておりて来るのを待つてあげる」など他の子を思いやり、またみんなで楽しもうとするけやきの子どもたちの姿がありました。

子どもたちと駆け引きをしながら、お互いが楽しく過ごせる方法を摸索中です。

けやき



あおい



ゆう



今年は卒業生が二人いたので、お部屋でお祝いをしたり、きょうだいで外食に行ってお祝いしました。また新たな1年が始まるので、楽しく生活していきたいと思います。

春休みは、公園や釣りへ行き、室内でゲームを満喫したりとのびのび生活をしました。春の温かい陽気を浴び、子ども達も職員も元気に過ごすことが出来ています。サツカーレ、ギターを熱心に練習したりと、子ども達も色々やりたいことにチャレンジしています。

今年の冬は久しぶりにスキー・スノボに1泊2日で行きました。小規模ゆうと一緒に行くことで、中高生男児たちの交流にもなりました。初めて滑る子は「できないし！」と怒つたりすることもありましたが、みんな最後は笑顔で滑つており、

ウインタースポーツを楽しみました。季節に合わせて楽しめるなどをしていきたいと思います。

卒業式が終わつて早めの春休みに入つた、小6女児は、時間がたつぶりあることで、お菓子作りを沢山しました。

パン作りが得意な男性職員から作り方を聞いて、自分でアレンジしながらパンを作つたり、ケーキを作つて部屋の子に振舞つていました。



里親家庭支援センター
ほだかの里
ほだかの里では、皆さんに持ち寄つていただきた不用品、未使用品を集めてマルシェコーナーをつくりました。里親の皆さんは、一時保護など短期で子どもの受け入れをしている方も多く、必要なものを一時的に利用したいという独自のニーズがあります。そんな里親さんの声に少しでも応えられるよう、ゆうりん・ほだかの職員の協力もあり、マルシェ内のものも少しづつ充実してきました。

チャイルドシートなど、一般家庭でも一時期しか使用しないようなものなどを、皆で使い回せるような仕組みが出来たことで大変喜ばれています。新たに入荷したものは、インスタグラム等を活用してお知らせしています。ぜひご覧ください。



ふれあいセンターおおだか



きょううわ

厨房



「食育の実践と子どもの変化」

令和4年度も利用日・利用人数の制限は引き続き行つて運営してきましたが、コロナ感染症も緩和されたなか、予約人数を増やし、母親の研修会の開催など行つきました。研修会については参加者が多数になる事を考慮し年齢に合った研修を計画してきました。

コロナ禍で今まで通りに出来なくなつた事が数多く有りましたが、年齢別の利用にしたことで、同年齢の子を持つ母親同士が関わり、子育ての事や同じような悩みを持つている親同士が繋がることで、自分の子どもに対する対応はなかなか思うような声掛けが出来ないこともありますが、お母さん



同士がお互いの子どもの姿を褒め、温かく見守る姿を目にしました。そんな時「お母さん、素敵な言葉掛けですね」と伝えていました。

利用者さんの中には第2子出産の方が何人かいらつしやいます。出産後は父親が育児休業を取得しているというケースが増えたこと、父親がふれあいセンターを利用される回数が増えてきていたり、利用の回数が増えてきているのも確かです。母親のリフレッシュのためにお子さんを連れて利用されることもあります。育児休暇が気兼ねなくどることができる環境が早く整うことを願っています。

昨年度、進学や就職のため4人がきょうわを卒立ちました。きょうわではお小遣い、携帯代や国民健康保険料、将来に向けての貯金など、自分で稼がなければいけません。特に高校に通つている場合は学業との両立も必要です。決して簡単なことではないですが、それぞれのペースでコツコツと夢に向かつて一所懸命頑張りました。

ひとつひとつ準備を進める中で、初めての一人暮らしにワクワクしている姿もあれば、時間をかけて貯めてきたお金を使いこんでしまったり、「早く出たいわ」などと言つてみたりと不安な表情も見えていました。「早く出たいわ」などと言つてみたりと不安な気持ちにならなかった後も何かあつてもなくともいつでも連絡できる・戻れる場所があること、住む場所は変わつても変わらず見守つてくれる人がいることが、子どもたちの新しい場所で新しいことにチャレンジする力に繋がるのだと思います。

無事に新年を迎えることができた1月頭、中央有鄰学院では初めてとなるマグロの解体ショーやを行いました。普段納品してもらつてお魚屋さんからのご支援とご協力もあり、大迫力のお正月らしいイベントとなりました。子どもたちにとって初めての経験だつたためか、鮪をさばく様子をじつと見つめている姿が印象的で、普段あまり食べない子が山盛りの鮪丼を食べてしたり、お刺身は苦手だけどチャレンジして食べられるようになつた子もおりました。普段の食事で「食べなさい」と言うよりも、お店や生産者の方と関わる機会や、お皿に乗つている食べ物はどんな人が関わつていて、どこからやつてくるのか、それを日々の生活の中で知ることで、子どもたちは変わっていくことを実感しました。子どもはもちろん、大人も混ざつて皆で「美味しいね！」と食べている様子は、厨房職員として見ていて微笑ましく、幸せな気持ちにさせてもらつたと同時に、施設での食にまつわる経験を増やすためにできることはないかな?と新たな課題が見つかった一日でした。



権利擁護 つてなんごうつ？

ほだか 大塚 沙也佳



児童福祉施設における権利擁護とは、施設で生活する子どもたちが持つ権利を保護し、侵害から守ることを指します。子どもたちの人権を守り、子どもたちが安心して健やかに成長できる生活の場を目指して、ほだかで行っている様々な取り組みをご紹介したいと思います。

振り返りノート

子どもとの関わりについて、職場風土について、法人や自身の課題について質問について答えてもうことで、自身の養育を振り返る機会としています。自己評価して気づいたことについてもコメントとして書いてもらいます。全職員の振り返りノートの結果は集計し、職員会で共有しています。

ほかハット・にこりハット

ほかハットでは、自分、もしくは他職員の子どもの関わりの中で、「この関わりはまずい」と思った場面や事柄を記入します。（※誰が書いたかはわからないようになっています。）記入した内容については、どのように取り扱ってほしいか（守秘か否か）ということも記入します。

にこりハットは、子どもとの関わりの中で、かわいいかつた場面やほっこりした場面を記入してもらいます。「この子はこんなことをするんだ

ね！」と読むたびに皆でほっこりしています。

この取り組みを始めてから、日常の養育の中で気になつても面と向かつて言えないことが、書面でなら出てくるようになりました。自身のその後の養育について注意喚起の役割にもなつていると思います。

ロールプレイ・グループワーク

職員会議の時間を使い、子ども対応等でよくある困った場面を設定してロールプレイをしたりグループワークで議論をしたりしています。

ロールプレイでは、長泣きする子どもに対してユーニットの外から見ていた職員がどのように介入したらいいかを子ども役と職員役に分かれてやつてみて、子どもと職員それぞれの気持ちを共有し、どの様に介入したらよかつたか等を話し合ったこともあります。

など）権利、必要、欲望のどれに当てはまるかについて話し合いました。子どもの月齢によつて当てはまるところが違い、様々な職種の職員がいることで幅広い意見が出ました。

他にも、名古屋市の権利擁護委員会が作成した子どもの権利ノート「たいせつなあなた」を読んで皆で話し合い等をしています。

権利擁護というと難しく感じますが、委員会メンバーを中心に、ほだか職員全員で子どもの権利について考えています。



職員紹介



Q どんなことに幸せを感じますか
おいしいものを食べることです！好き嫌いが多いですが、おいしいものを食べた時はとても幸せです。ゆうりんのご飯はとてもおいしいので、子どもたちと「美味しいー！」を共有できるのも幸せです。

ゆうりん 板倉 彩未

Q 仕事をしていく「良かった」と感じることは何ですか

子どもたちが出来なかつたことができるようになった瞬間を見る」ことです。最近ではずっと自転車の練習をしている子が乗れるようになつたところ見ることがで、一緒に喜びを共有できただことがとても嬉しかつたです。

Q 仕事をしていく「良かった」と感じる

ことは何ですか
子どもたちが出来なかつたことができるようになった瞬間を見る」とです。最近ではずっと自転車の練習をしている子が乗れるようになつたところ見ることがで、一緒に喜びを共有できただことがとても嬉しかつたです。



ほだか 三浦 愛佳

Q ほだかで働きたいと思ったきっかけは何ですか

大学の授業で乳児院・児童養護施設の事を知りました。それまでは幼稚園の先生になりましたが、勉強するうちに子どもとより丁寧に関わることが出来る乳児院で働いてみたいと思うようになりました。色々な施設を調べましたが、ほだかを見学させていただく機会があり、子どもや職員の楽しそうで明るい雰囲気がとてもいいなと思い、私も一緒にほだかで働きたいと思いました。

Q 最後に一言どうぞ

子どもたちの笑顔に囲まれて仕事ができる今環境がとても大好きです。子どもたちと一緒にたくさん学んで、たくさんの子どもたちを助けられる笑顔にできる職員になれるよう頑張りたいと思います。

Q ほだかで働いてよかったです
一番に子どもがとてもかわいくて仕事が楽しいことです！連休があるとそろそろ子どもたちと会いたいなあと思うこともあります。子どもの生活に密着して教育しているので、私自身もたくさんのこと学ぶことができ、また、子どもたちも「うーちゃん抱っこー」と甘えてくれる」とが嬉しく感じます。

Q ほだかの「こ」が好きー」というところはありますか

職員皆さんが子どもたちへの愛情が溢れています。大人も子どもも笑顔がいっぱいなところです！事務所から子どもが見えた、「かわいいー」と話したり、子どもの面白い行動にみんなで笑い合って

いたりとてもあたたかい雰囲気なところが好きです。子どもたちとおでかけに行ったりみんなでご飯を食べたり楽しいことをみんなで共有できるところも好きです！

ほだか 三浦 愛佳

Q 休みの日はどのように過ごしていますか

平日にお休みの日も多いのでひとりで出掛りますが、一日中ゴロゴロして映画を見てお菓子を食べて過ごすこともあります！休みが合えば友達や同期ご飯に行くことも多いです。

Q 最後に一言どうぞ

一年があっという間に驚いています。この一年仕事をのんびりしてしまうことが多かったので、二年目からテキパキと頑張りたいと思っています！これからもたくさん勉強して素敵な保育士になります！



支援ありがとうございました

令和4年 10月1日から令和5年3月31日までに、寄贈・招待・ボランティア活動にご協力いただきました方々のご紹介をさせていただきます。紙面の都合上内容は省略させていただきます。(順不同・敬称略)

【個人】

沓名章 森宣子 山田光男・美和
深谷まみ 山口ミツノ 田中尚己 門司一徹
小椋寿男 中上純一 久野すみ子 宮沢信子
松山信 山口和子 三浦修一 浜島四郎
ジェイムス・ヘイブンス 佐久間信男 三治
谷本美枝子 濱口政弘 白岡三奈 クスマト
稻熊美恵子 佐藤孝介 夏目俊信 早川富雄
瀬川卓也 石橋栄子 川瀬喜世美 高津佳成
榎本卓純 都竹有美 川並淳子 難波さゆみ
小川康一郎 杉山かおり 上田直子 山口保
鈴木伊代梨 金田和久 吉長淳子 春田琢磨
門司一徹 原口照康 遠藤大士 川端定雄
服部美也子 ヤマナカ 七都にい 小島庸子
大前浩美 村上匠 内田汐音 柴橋佳幸
伊藤吟子 山見由紀子 鶴頭美聖 紙屋裕安
福嶋俊郎 矢守信昭 青木勉 石井祐治
宮沢信子 長江和子 長江謙二 青木美香
長江真克 濱崎輝美 柴田周平 山口諒真
安田訓明 新留好美 鈴木卓 河西ヒロ子
河西知子 玉利洋介 山口裕 毛受小夜子
梶野弘 宗吉美雪 高橋亜紀 田島紀美子
近藤加代子 早川久代 長島晴美 上村優子
小川康之 田尻克子 伊藤壽重 水野太久藏
佐々木やえ 丸田優子 山口浩導 杉浦孝一
柳谷真智子 近藤幸江 山岸せい子 下村勝
一杉治夫 後藤順生 後藤雪江 町野芳恵
中島光利 山口実 小田義信 宮治沙穂
持橋いくよ 紙屋祝子 三浦和人 朝倉絹代
眞木芳子 近藤八朗 川辺清次 安井洋子
仲野禮子 土居万里子 藤川尚士 奥野知秀
谷川修 村知梨紗 森政樹 伊藤富雄 匿名
中部善銀行 フードバンク愛知
名古屋食糧 名古屋稲穂隊
尾州商会こじま家小島一登 ワイドワン

セブンイレブンジャパン ワイドグループ
トヨタシステムズ 日本ゼネラルカード
ヒルズウォーカークデジタル
L.A.P東海 ソロピツアチエザリ
セブンイレブン名古屋鹿山2丁目店
緑区更生保護女性会 JAあいち経済連
全国シャンメリーアソシエーション
アサト商会
ひろびーフアミリーとフォロワー
日本鏡餅組合 ブライド・トゥー・ビー
名古屋食肉三水会 中部楽器技術専門学校
ファーストリテイリングサステナビリティ部
ミライプロジェクト 热田神宮講務課
コカ・コーラボトラーズジャパン
さんわコーエーポレーション ユウシン
愛知県警備業協会青年部会 緑鱗城会
チユシユアンナンデリバリー・サービス
小麦の奴隸名古屋鳴海店 一歩の会
ねつな@タクシードライバー 名糖産業
CBCチャリティー募金 大高北学区女性会
緑区保健環境委員会 名古屋キワニスクラブ
はやかわ耳鼻咽喉科クリニック 丸美産業
光ネットワーク協同組合 热田法人会女性部
緑区社会福祉協議会 グループエスカラーデー
フジタラントスコーポレーション 日本教文社
TMRのボス 東山書房 CHIMNEY TOWN
オサムファーム MITテクニカルジャパン
名古屋東山ロータリークラブ タキヒヨー
カーブス大府勤文前 NIPPO 中部支店
The Music Restraint 「歩の会 鮪」
あいち花マルシェ 2022 Daska&Desiree
アズオオン ONIGiRiエコ・ポリス 鶴工房
三ツ甚 エスティケー 大橋製作所 包む
セブンイレブン名古屋大高南店 すみれ
東亜ライン 炉ばた焼きどる 圓道寺
南医療生活協同組合 ジャパンフォレスト
ヘルバーステーションかなめ アジャスト
名古屋名南ロータリークラブ 井上紙店
名古屋商工会議所 日本児童養護施設財団
カトリック聖マリア在俗会
日本誕生花セラピー協会 豊明損保センター
中央有鄰学院ひとりひとりを支える会
若草プロジェクト 守山商工会 有松商工会

寄付里親のご案内



施設で暮らす子どもには、自分だけを見てくれる、自分だけを大切にして愛してくれる存在(里親)が必要ですが、実際に里親になるということは、簡単なことではありません。

しかし、里親にならなくても、寄付里親として、施設の子ども一人ひとりの育ちを支え、寄り添うことができます。

どんな子どもにも、それぞれ夢があり、目標があります。それを施設にいることで諦めさせたくないというのが我々の願いです。一時的な寄付ではなく、継続的な支援の見通しがあって初めて、子どもたちはそれぞれの「やつてみたい」「なりたい」を叶えることができます。

是非施設で生きる子どもたちの夢や自己実現のための費用を支えていただけないでしょうか。

寄付里親として、一人ひとりの子ども的人生に寄り添っていたけないでしようか。

※寄付里親について詳しくは、『ゆうりん 寄付里親』で検索、もしくは左記QRコードからご確認ください。

【団体】

中部善銀行 フードバンク愛知
名古屋食糧 名古屋稲穂隊
尾州商会こじま家小島一登 ワイドワン



COLUMN

同じ店のラーメンでも、心の底から「んあ~、うんまっ!」と思える日もあれば、「あれ?今日はもうひとつだな…」と思う日があります。「これは果たして仕込みの問題なのか、自分のコンディションの問題なのか、明確に証明できるすべはありません。

密という立場からするとつい

「店の問題」と決めつけてしまい

がちですが、舌や胃腸、心身のコン

ディションも全く無関係ではない

はずです。

実はこれ、密とラーメン店に限った話ではなく、親と子でも同じことが言えると思つんです。

「今日はいまいちだった」とお店の問題に対するのは簡単です。お店は何も言いません。

「何度も言つたら分かるの!」と子どもの問題に対するのも簡単です。

子どもの問題に対するのも簡単です。

「何度も言いません。

子どもは何も言えません。

でも、角度を変えて考えてみた

り、丁寧に自分自身に向き合つこ

とで「実は…」と思わぬ問題に

辿り着くかもしれませんし、お店

も子どもも救われる」とあると

思つんで。

本当に美味しいラーメン(親子

関係)が丁寧な仕込みとお互いの

心身のコンディションによつて初

めて完成すると思えば、その向き

合い方も少し変わつてくるかもし

れませんね。